

K O R G D I G I T A L P I A N O

CONCERT

コルグ デジタル・ピアノ コンサート

C-2000

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの
取扱説明書をよくお読みになって、正しい方
法でご使用ください。

目次

安全上のご注意	2
おもな特長	3
スペック	3
1.演奏するための準備	4
2.デモ演奏を聴いてみましょう	5
3.音色をかえて弾いてみましょう	5
4.ペダルを使ってみましょう	6
5.いろいろな機能	6
6.MIDI	7
7.故障とお思いになる前に	8
スタンドの組み立て方	9
MIDIインプリメンテーションチャート	11



KORG

HI HYPER INTEGRATED
SYNTHESIS SYSTEM

安全上のご注意

WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

	CAUTION RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT OPEN	
AVERTISSEMENT: RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.		
注意 感電の恐れあり、キャビネットをあげるな		
CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT REMOVE COVER (OR BACK). NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.		

マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近に置いて、お子様から専門家の方まで幅広く愛用していただけます。

デジタル・ピアノは大きくて重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での置き場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。小さなお子様には、最初にご家族の方が教えてあげてください。

警告



- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 設置は、水平で平らな床面に行ってください。
- 本製品を移動するときは、デジタル・ピアノ本体とスタンドを別々にし、必ず2人以上で持ち上げてください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったり、製品に液体がこぼれたとき
 - 製品が(雨などで)濡れたとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき



- 本製品は、キーカバーまたは譜面立ての開閉時に、指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分に注意してください。



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。最寄りのコルグ・サービスセンターまたはコルグ営業技術課へ、必ず相談してください。
- 本製品の上へ乗ったり、下へもぐり込んで遊ばないでください。
- 本製品の上へ、物を置かないでください。落ちると危険です。
- デジタル・ピアノ本体に、前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。
- 地震時は、本製品に近づかないでください。

- 電源コードは、無理に曲げたり、重いものを上に乗せないでください。電源コードに傷がつき危険です。
- 本製品を単独で、またはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合、設定によっては、永久的に難聴になる程の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対にいれないでください。
- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
 - 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
 - ホコリの多い場所
 - 振動の多い場所



- 濡れた手で、本製品を使用しないでください。



- 風呂場、シャワー室などで、本製品を使用しないでください。



- 本製品を水気のある場所で使用しないでください。
- 本製品に水をかけたり、水をこぼさないでください。



- この機器を分解したり、改造しないでください。

警告(スタンド)



- 付属のスタンドは、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って、確実にデジタル・ピアノ本体を設置し、使用してください。

- 長期間使用になりますと、スタンドのネジが緩む場合があります。使用中にスタンドの揺れを大きく感じるときは、安全のため、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。

警告(イス)



- 付属の椅子は、ピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり踏台にすると、転倒したり壊れたりして危険です。



- 付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けしないでください。

注意



- 本製品は、正常な通気が妨げられることのない所に設置し、使用してください。
- 本製品は、マイクロコンピュータを使用した機器です。このため、ラジオやテレビなどを接近して同時に使用すると、それらに雑音が入ることがあります。また、ラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて、誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは、十分に離して使用してください。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- スイッチやツマミに必要な以上の力を加えると、故障の原因となりますので注意してください。
- 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は、絶対に使用しないでください(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。



- 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



- 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

おもな特長

多彩な音色

コンサート・グランドピアノをはじめコルグ独自の**HI (Hyper Integrated)** シンセシス・システムによる豊かな表現力を生む高品位な8種類の音色を内蔵しています。

ペダル効果 p.6)

アコースティック・ピアノと同じようにダンパー効果、ソステヌート効果、ソフト効果の3機能があります。またダンパー・ペダルとソフト・ペダルには、ペダルを踏む深さにより効果のかかり方が調整できるハーフ・ペダルを使用しています。

タッチ・コントロール機能 p.6)

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを3種類の中から選択できます。

音程の調節 p.6、7)

トランスポーズ機能により移調を、ピッチ・コントロール機能により音程の微調整をおこなうことができます。

MIDIの装備 p.7)

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりをおこなう統一規格MIDIを装備しています。

MIDIを使えば接続した機器間で相互にコントロールすることができ、本機を16パートマルチティンバー音源としても使用することができます。

スペック

鍵盤	-----	88鍵 (A0～C8)
音色	-----	8音色 ピアノ1、ピアノ2、エレクトリック・ピアノ1、エレクトリック・ピアノ2、ハーブシコード、ビブラフォン、オルガン、ストリングス
最大同時発音数	----	64音/32音 (ステレオ)
コントロール	-----	パワースイッチ、ボリュームスライダー、ファンクションスイッチ
ペダル	-----	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート (*印:ハーフペダル対応)
接続端子	-----	ヘッドホン×2、MIDI (IN・OUT)、ペダル、ACインレット
アンプ出力	-----	15W×2
スピーカー	-----	12cm×2
定格電源	-----	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	-----	31W
外形寸法	-----	1379(W)x432(D)x843(H)mm
重量 (スタンド含)	-----	41.0kg
付属品	-----	ヘッドホン、椅子、AC電源コード、専用スタンド、音色シール、デモシール

- ・仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。
- ・MIDIは社団法人音楽電子事業協会 (AMEI)の登録商標です。
- ・Sound Processed with INFINITY™

取扱説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[]で括弧しています。

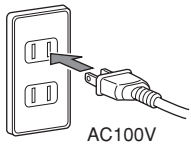
: 使用上の注意を表します。

 p. ■): 参照ページを表します。

演奏を楽しむためのエチケット

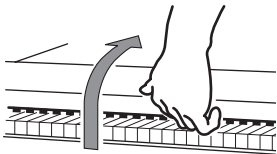
音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

1. 演奏するための準備



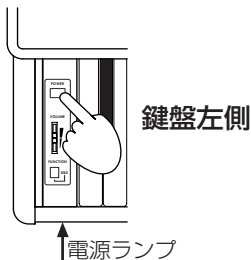
1. 電源コードを差し込みます

- 電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。必ず**AC100V**の電源コンセントに差し込んでください。
- コネクタ側は、本体底面のソケットに取り付けてください(p.10 参照)。



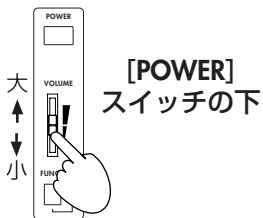
2. キーカバーを開けます

- へりの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。キーカバーを閉じるときは、へりの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。
- ▲ 開閉中は指や手を挟まないように十分注意してください。
- ▲ 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になることがあります。
- ▲ キーカバーを開閉するときには、キーカバーの上に紙やコイン等がないことを確認してください。中に入り込む恐れがあります。



3. 電源をオンにします

- **[POWER]** スイッチを押して、電源をオンにします。電源をオンにすると、正面左側にある電源ランプが点灯します。
- 電源をオフにするときはもう一度**[POWER]** スイッチを押します。電源をオフにすると、正面左側にある電源ランプが消灯します。



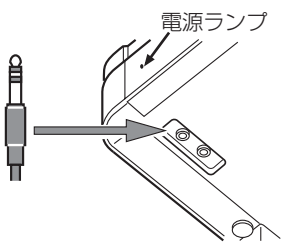
4. 音量を調節します

- **[VOLUME]** スライダーを中程まで上げておきます。スライダーを上には動かすと音量が大きくなり、下には動かすと音量が小さくなります。実際に弾きながら適度な音量に調節してください。**[VOLUME]** スライダーは、本体のスピーカーとヘッドホン端子から出力される音量をコントロールします。

■ ヘッドホンを使うときは

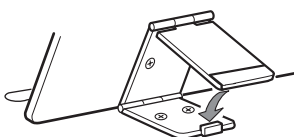
ヘッドホンを差し込むと本体のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

- 本体左下側にあるヘッドホン端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグを差し込みます。ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。
- ▲ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量のまま長い時間きかないでください。
- ▲ ヘッドホン端子をヘッドホン以外の用途に使用しないでください。

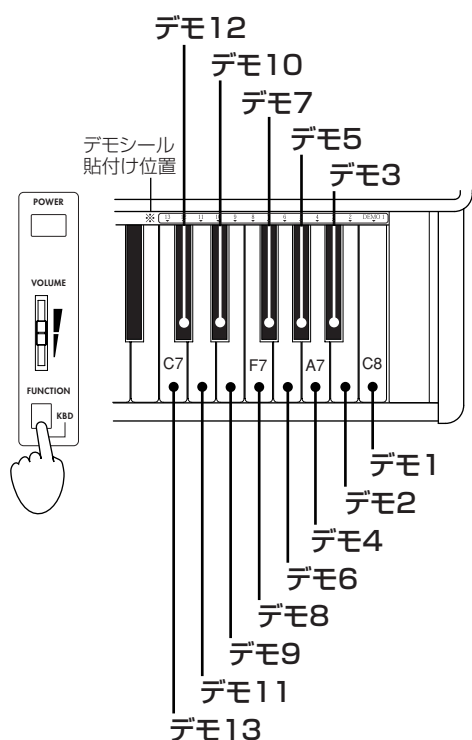


■ 譜面立てを使うときは

- 譜面立てを起こし、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。



2. デモ演奏を聴いてみましょう



デモ演奏は13曲内蔵しています。デモ演奏を聴いて豊かな音色とその表現力を確認してください。

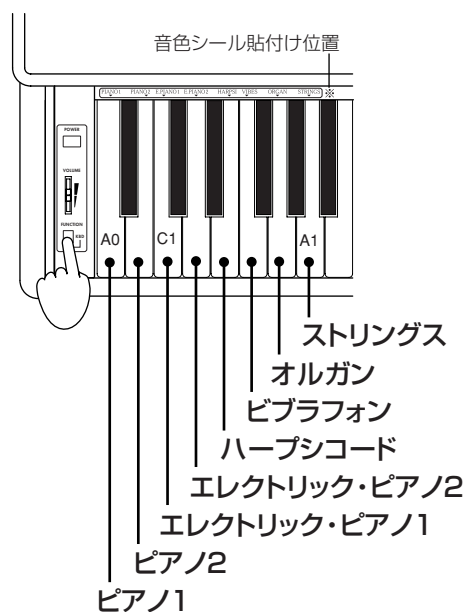
[VOLUME] スライダー下の [FUNCTION] スイッチを押しながら、本体右側のC7からC8のいずれかの鍵盤を押してください。押した鍵盤によって下記のデモ曲の演奏が始まります。

演奏は選んだ曲から順番に止めるまでくり返し演奏します。演奏を止めるときは [FUNCTION] スイッチを押してください。

デモ1:	F.ショパン/幻想即興曲 Op.66
デモ2:	KORGオリジナル/Harmony of Love
デモ3:	KORGオリジナル/The Harp of Wind
デモ4:	KORGオリジナル/The Garden
デモ5:	J.S.バッハ/イタリア協奏曲 BWV971
デモ6:	N.リムスキー=コルサコフ/熊蜂の飛行
デモ7:	F.メンデルスゾーン/ウェディング・マーチ
デモ8:	J.S.バッハ/G線上のアリア
デモ9:	L.v.ベートーヴェン/エリーゼのために
デモ10:	W.A.モーツァルト/ソナタ K.331 第3楽章「トルコ行進曲」
デモ11:	F.ショパン/別れの曲 Op.10-3
デモ12:	F.ショパン/ワルツ 第6番 変二長調「小犬」 Op.64-1
デモ13:	C.ドビュッシー/アラベスク 第1番

※付属のシールをC7からC8鍵盤の位置に合わせて貼ってください。

3. 音色をかえて弾いてみましょう



音色は8種類内蔵しています。

[VOLUME] スライダーの下の [FUNCTION] スイッチを押しながら、本体左側のA0からA1のいずれかの鍵盤(白鍵)を押してください。押した鍵盤によって下記の音色にかわります。

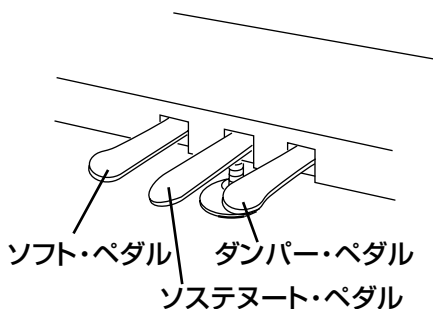
電源をオンにしたときは初期設定の音色(ピアノ1)に戻ります。

ピアノ1 (PIANO1):	深みと艶があり、華やかに響くグランド・ピアノの音
ピアノ2 (PIANO2):	クリアで明るい感じのグランド・ピアノの音
エレクトリック・ピアノ1 (E.PIANO1):	軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音
エレクトリック・ピアノ2 (E.PIANO2):	アタック感があって切れのよいエレクトリック・ピアノの音
ハーブシコード(HARPSI):	クラシックな趣のある繊細なハーブシコードの音
ビブラフォン(VIBES):	まるやかなビブラフォンの音
オルガン(ORGAN):	荘厳なパイプオルガンの音
ストリングス(STRINGS):	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

※付属のシールをA0からA1鍵盤の位置に合わせて貼ってください。

4. ペダルを使ってみましょう

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能があります。これらの機能を使って演奏をより効果的に表現することができます。



ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

ソステヌート・ペダル

任意の音に対してのみダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対してはダンパー効果はかかりません。

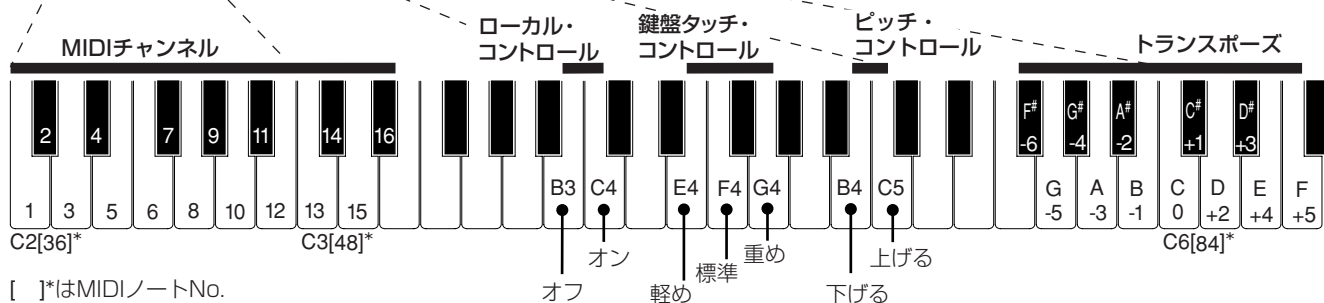
ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

5. いろいろな機能

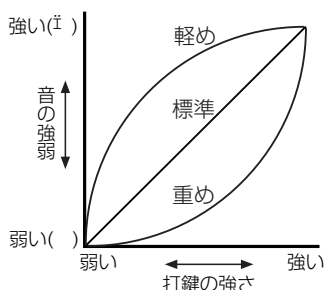
本機には音色をかえたり、デモ演奏を聞くこと以外でも、**[FUNCTION]** スイッチを押しながら、機能が割り振られた鍵盤を押すと各設定ができます。MIDIチャンネル、ローカル・コントロールについては次項「6.MIDI」をご覧ください。

[FUNCTION] スイッチを押している時は演奏しないでください。予期せぬ設定になることがあります。



[*]はMIDIノートNo.

鍵盤タッチ・コントロール



ピッチ・コントロール

ピッチの微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。

鍵盤タッチ・コントロール機能

E4からG4の鍵盤(白鍵)で、弾いたときの強弱と音のでかたを設定します(左図参照)。鍵盤を弱く弾いてもフォルテシモが出るようにしたいときは、**[FUNCTION]** スイッチを押しながら、E4(軽め)を押します。

鍵盤を強く弾かないとフォルテシモが出ないようにしたいときは、**[FUNCTION]** スイッチを押しながら、G4(重め)を押します。

[FUNCTION] スイッチを押しながら、F4(標準)を押すと、弾いた強さに合わせて通常のピアノのような音のでかたになります。電源をオンにしたとき(初期設定)は標準です。

ピッチ・コントロール機能(チューニング)

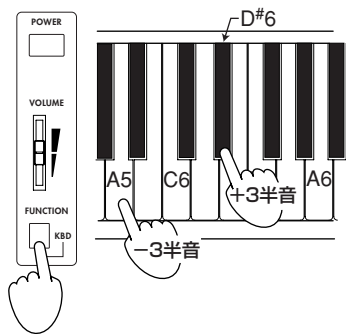
B4、C5の鍵盤で本機のピッチ(音の高さ)を452.5から427.5Hz(ヘルツ)で0.5Hzごとに設定します。

[FUNCTION] スイッチを押しながらB4を押すたびに0.5Hzピッチが下がります。

[FUNCTION] スイッチを押しながらC5を押すたびに0.5Hzピッチが上がります。

[FUNCTION] スイッチを押しながらB4とC5を同時に押すと440Hzに戻ります。

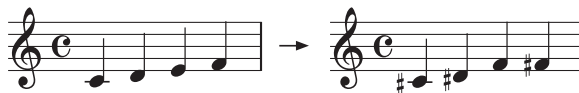
電源をオンにしたとき(初期設定)は440Hz(A4)です。



トランスポーズ機能(移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌に演奏とキー(調)が合わせられないときなどがあります。このときキーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲でずらすことができます。

たとえば1半音上げた場合、下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



[FUNCTION] スイッチを押しながら、**F#5**から**B5**、**C#6**から**F6**のいずれかの鍵盤を押すと、キーに合わせてトランスポーズします。

弾いた鍵盤より低い音、たとえば、**C6**の位置で**A5**(-3半音)の高さの音を出すには、[FUNCTION] スイッチを押しながら**A5**を押します。

弾いた鍵盤より高い音、たとえば、**C6**の位置で**D#6**(+3半音)の高さの音を出すには、[FUNCTION] スイッチを押しながら**D#6**を押します。

[FUNCTION] スイッチを押しながら、**C6**を押すとトランスポーズなし(±0)の設定になります。電源をオンにしたとき(初期設定)はトランスポーズなしです。

6. MIDI

MIDI (ミディ) とは?

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパーペダルなどの効果を、一緒にコントロールすることができます。また、他のMIDIキーボードやシーケンサー(自動演奏装置)から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。

ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、MIDIについてわかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。

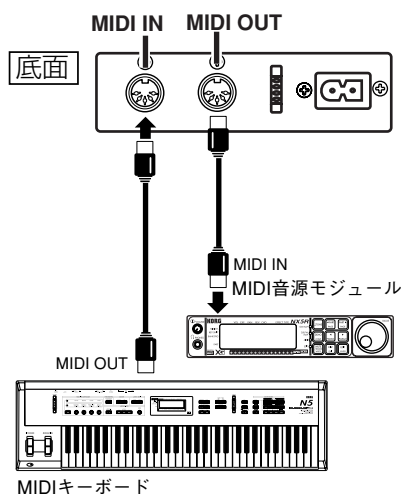
MIDI OUT...MIDI情報を送信します。本機の鍵盤を弾いたときに出力されるMIDI情報で外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本体の**MIDI OUT**端子と外部MIDI機器の**MIDI IN**端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDI IN...MIDI情報を受信します。外部MIDI機器(MIDIキーボードやシーケンサーなど)で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本体の**MIDI IN**端子と外部MIDI機器の**MIDI OUT**端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIチャンネルの変更

C2から**D#3**の鍵盤で、本体底面の端子(**MIDI OUT**、**MIDI IN**)から送信するMIDIデータのMIDIチャンネル(1~16)を変更することができます。

たとえば、**MIDI OUT**に接続したMIDIチャンネルが2の機器を本機で鳴らす(コントロール)には[FUNCTION] スイッチを押しながら**D2**を押して、本機のMIDIチャンネルを2にします。電源をオンにしたとき(初期設定)のMIDIチャンネルは1です。



MIDIチャンネル

MIDI端子を使って、本機を演奏することによって他のMIDIを備えた楽器を鳴らしたり、他のMIDIキーボードやシーケンサー(自動演奏装置)から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすときに、接続機器と同じチャンネルに設定します。

ローカル・コントロール

以下のようなときにオフにします。

- ・本機の鍵盤を弾いたときに本体の音源は鳴らさないで、MIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合。
- ・シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合。

ローカル・コントロールの切り替え

C4、**B3**の鍵盤でローカル・コントロールのオン、オフを設定します。

本機の鍵盤を弾いたときに本体からの音を出なくする(MIDIデータの送受信のみ行う)ときは、**[FUNCTION]**スイッチを押しながら、**B3**を押して、ローカル・オフにします。**[FUNCTION]**スイッチを押しながら、**C4**を押すと、ローカル・オンになり通常の鍵盤を弾いての演奏ができます。電源をオンにしたとき(初期設定)はローカル・オンです。



ローカル・コントロールをオフにすると鍵盤を弾いても通常は音が出なくなります。

プログラムチェンジ対応表

PC#	音色
0	ピアノ1
1	ピアノ2
2	エレクトリック・ピアノ1
3	エレクトリック・ピアノ2
4	ハーブシコード
5	ピブラフォン
6	オルガン
7	ストリングス

0～7のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。

外部MIDI機器より8以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

プログラムチェンジの送受信

接続しているMIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えたり、接続しているMIDI機器から本機のプログラム番号を切り替えることができます。

本機の音色を選ぶ(☞P.5「3.音色をかえて弾いてみましょう」)と左表のように0～7のMIDIプログラムチェンジナンバー(PC#)を送信します。

また、外部からプログラムチェンジナンバー(PC#)を受信すると、左表のようにMIDIチャンネルに対応した本機のティンバーの音色が切り替わります。

このとき鍵盤で発音出来る音色はプログラムチェンジされません。

マルチティンバー音源として使う

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パートマルチティンバー音源として動作します。接続したシーケンサーなどからの演奏データと一緒にプログラムチェンジメッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。本機をマルチ音源として使用するとデモ2のような曲が演奏可能になります(☞p.5)。

7.故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、次の事項を確認してください。それでも症状が改善されないときには、お近くの販売店またはコルグサービスセンターまでお問い合わせください。

電源が入らない

- ・電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか? ☞ p.4
- ・電源コードのコネクタを本体底面のソケットに差し込んでいますか? ☞ p.10
- ・電源スイッチがオンになっていますか? ☞ p.4

スピーカーから音が出ない

- ・**[VOLUME]**スライダーが上がっていますか? ☞ p.4
- ・ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか? ☞ p.4
- ・ローカル・コントロールの切り替えがオフになっていませんか? ☞ p.8

音が途切れてしまう

- ・本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリングデータの1つを鳴らす音色と2つを鳴らす音色があります。本機では、ピアノ1の音色では2つのデータを鳴らします。この音色を選ぶと、ダンパーペダルを踏んでいるときも含め同時に発音させることができる音数は32音となります。それ以外の音色では、最大同時発音数は64音となります。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- ・ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。

ペダルの効果がかからない

- ・ペダルコードがはずれていませんか? ☞ p.10

接続したMIDI機器が送信したMIDIデータに回答しない

- ・MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。
- ・MIDI機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを受信していることを確認してください。 ☞ p.7

スタンドの組み立て方

注意

本体組み付けは二人以上で行ってください。

本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないよう、注意してください。

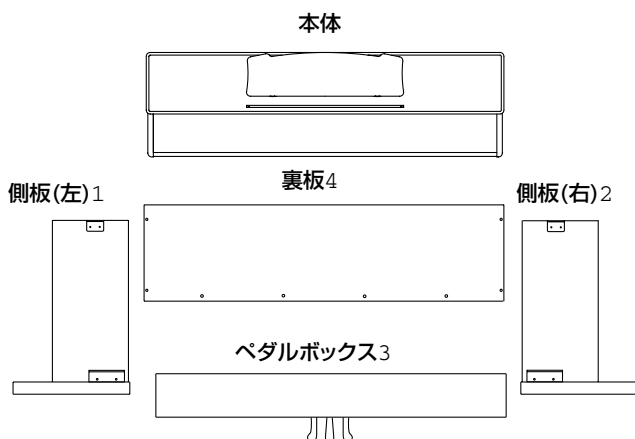
部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。

本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。



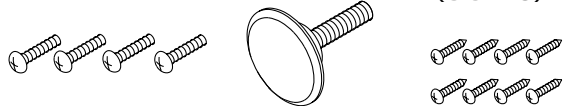
1. 箱を開けて部品を取り出します。

下記部品が揃っているのを確認してください。組み立てのために、お手持ちの+（プラス）ドライバーを用意します。



ビニール袋詰め

組み付けネジ 5 × 4 (M6×16) アジャスター 6 ネジ 7 × 8 (3.5×16)

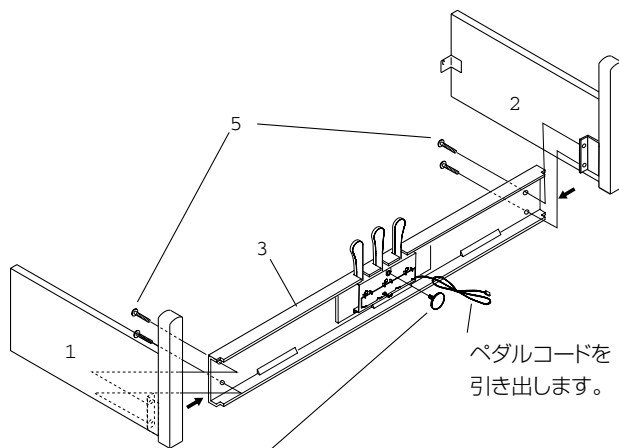


本体固定ネジ 8 × 2

コードホルダー 9 × 2



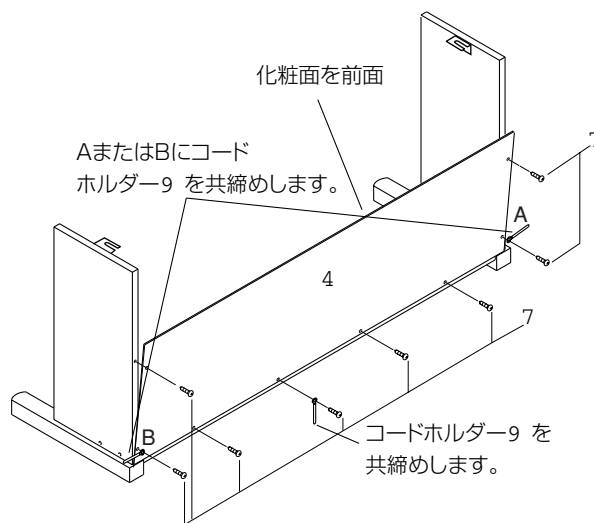
2. 側板(左)1 と側板(右)2 をペダルボックス3 に組み付けネジ5 4本で固定します。



アジャスター6 をペダルボックス3 に最後までねじ込みます。

3. 裏板4 を組み付けます。

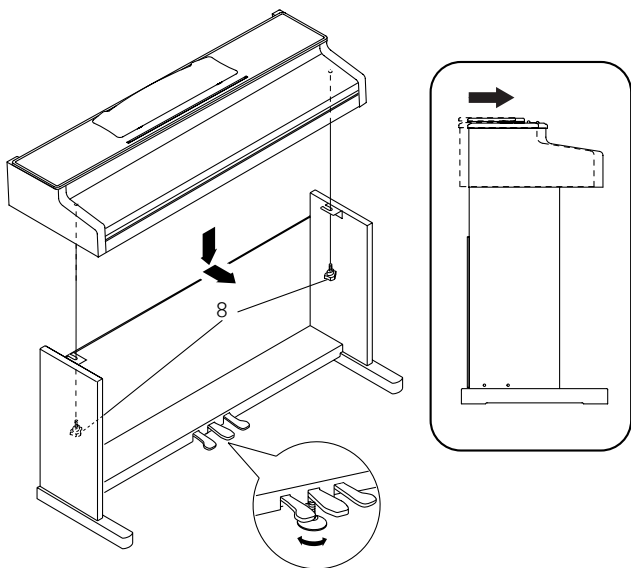
ネジ7 で裏板4 の下側(3ヶ所)を先に固定し、ペダルコード用にネジ7 1本でコードホルダー9 を共締めします。次にネジ7 で側板(片側2ヶ所ずつ)に固定します。このときコンセント位置に合わせて、AまたはBにネジ7 1本で電源コード用としてコードホルダー9 を共締めします。



○ ここでスタンドにすき間や傾きがないことを確認してください。

4. 本体を組み付けます。

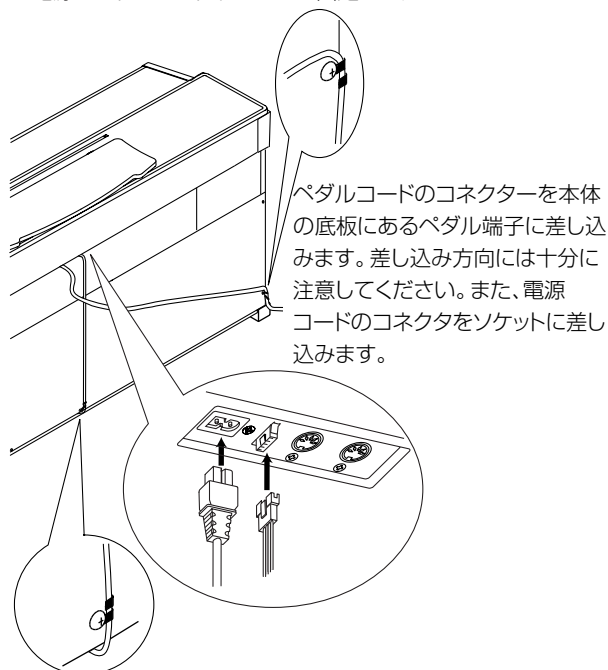
本体をスタンド左右の端に合わせてのせます。
本体固定ネジ8 2本を底面に仮止めし、後側から軽く持ち上げ前側に動かします。本体固定ネジ8 2本を締めて固定します。



! アジャスターを回して、アジャスターが床にしっかり当たるように調節してください。
アジャスターが床面にしっかり当たらないとペダルがぐらつき故障の原因になります。

5. ペダルコードと電源コードを本体底面に接続します。

- 電源コードをコードホルダーで固定します。



- ペダルコードをコードホルダーで固定します。

組立後のチェック

- 部品は余っていませんか？
余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- 取付ネジのゆるみのないことを確認してください。

! 注意

移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。

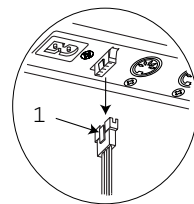
ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

ペダルコードは、コネクターのつまみ1 を押しながら外してください。無理にコードを引き抜くと壊れます。



ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時	1	1	
	設定可能	1-16	1-16	
モード	電源ON時	×	3	
	メッセージ	×	×	
	代用	*****		
ノート ナンバー:	音域	15-113	0-127	
		*****	21-108	
ベロシティ:	ノート・オン	○9n, V=1-127	○9n, V=1-127	
	ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ:	キー別	×	×	
	チャンネル別	×	×	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	7	×	○	ボリュームチェンジ
	11	×	○	エクスプレッション
	64	○	○	ダンパーペダル ※
	66	○	○	ソステヌートペダル
	67	○	○	ソフトペダル ※
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	0-7	0-7	
		*****	0-7	
エクスクルーシブ		○	○	Device Inquiry
コモン:	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム:	クロック	○	×	
	コマンド	×	×	
その他:	ローカル・オン/オフ	×	○	
	オール・ノート・オフ	○	○123-127	
	アクティブセンシング	○	○	
	リセット	×	×	
備考				
※ ハーフペダルの出力値 (0, 38, 74, 127)				

モード1: オムニオン、ポリ モード2: オムニオン、モノ
モード3: オムニオフ、ポリ モード4: オムニオフ、モノ

○: あり
×: なし

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一、保証期間内に製造上の不備による故障が生じた場合は、無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし、次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が、不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■修理や運送費用が、製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめコルグ・サービスステーションまたはインフォメーションへご相談ください。運送にかかる往復の費用は、お客様のご負担とさせていただきます。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。コルグ・サービスステーションまたはインフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし、外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

株式会社コルグ

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	☎(06)6374-0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	☎(092)531-0166

■修理等は、最寄りの各営業所または下記までお問い合わせください。

営業技術課	〒143-0001 東京都大田区東海 5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内	☎(03)3799-9085
-------	---	----------------

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)

KORG

- 本社：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3325-5691
- インフォメーション：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)5376-5022
- 東京営業所：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17 ☎(03)3323-5241
- 名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51 ☎(052)832-1419
- 大阪営業所：〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 7F ☎(06)6374-0691
- 福岡営業所：〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第 2 池田ビル 1F ☎(092)531-0166

URL: <http://www.korg.co.jp/>